



① 上「天目（烟瓷／青磁）」2016年、下「焼締盤」2018年

展覧会会期 11月23日(金・祝)～2019年3月24日(日)

菊池寛実記念 智美術館

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1F

<http://www.musee-tomo.or.jp>

プレスプレビューのご案内は8頁をご覧ください。

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、私ども菊池寛実記念 智美術館の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

このたび当館では2018年11月23日（金・祝）より2019年3月24日（日）まで、「川瀬忍 作陶50年の間（ま）」展を開催いたします。川瀬忍（1950年～）は、十代で作陶の道に進んで以来、現在まで活躍を続ける、現代を代表する青磁作家のひとりです。本展はその作陶50周年を記念した展覧会となります。つきましては、展覧会の概要、見どころ等をお知らせいたしますので、ひとりでも多くのお客様にお運びいただけるよう、周知にご協力を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

敬具

■展覧会概要■

展覧会タイトル：

「川瀬忍 作陶50年の間」

KAWASE Shinobu: Fifty Years of Celadon Making

○会 期 2018年11月23日（金・祝）～2019年3月24日（日）

○主 催 公益財団法人菊池美術財団、日本経済新聞社

○会 場 菊池寛実記念 智美術館（〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-35 西久保ビル）
<http://www.musee-tomo.or.jp>

○観覧料 一般1,000円／大学生800円／小中高生500円

○開館時間 午前11時から午後6時まで（入館は午後5時30分まで）

○休館日 月曜日（但し12/24、1/14、2/11は開館）12/25、1/15、2/12
年末年始[12月28日～1月1日]

○展示内容 青磁作家として活躍する川瀬忍（1950～）の作陶50周年を記念する展覧会。代表作、新作の他、古美術等を取り合わせ100点余を展示。（会期中、展示替えの予定）

展覧会に関するお問い合わせ ☎03-5733-5131／FAX：03-5733-5132
（担当：高田、島崎）

■展示のみどころ

本展は陶芸家、川瀬忍（かわせしのぶ/1950年～）の、作陶50年を記念する展覧会となります。18歳より作陶の道に入った川瀬は、これまで個展を中心に、現代作家として自身の美意識を加味した独自の青磁を発表してきました。当館創立者の菊池智（1923-2016）は、川瀬が10代の頃より作品に注目し、仕事を見続けました。そうした縁により、当館では2011年に「川瀬忍の青磁—天青から 静かなる青へ」と題し初の展覧会を企画し、ご好評をいただきました。この度は智美術館における二度目の個展として、改めて作家の半世紀にわたる活動を見渡しつつ、前回とは異なる視点を加えその創作の秘密に迫ります。これまでの発表作、未発表の最新作に加え、習作的な試みや、氏が憧憬する古美術等を当館の展示空間に自在に取り合わせ、その「間」に浮かび上がる作家の美意識や、創造性をご覧ください。

みどころⅠ 川瀬忍ならではの、青磁の美



「妖青の祈り」2008年

川瀬忍は、中国陶磁に倣った作風で名工として称えられた祖父／初代川瀬竹春、父／二代竹春のもと作陶を始め、青磁を発表するようになるとすぐにその質の高さで注目を集めました。川瀬の作品は細部まで隙のないシャープな形、静謐で深い青の釉調など、いずれも洗練された美を湛えています。高い技量と作家独特の感性から生まれる青磁は、「忍青磁」として、今日まで多くの人を魅了しています。

みどころⅡ 古い時代の美を呼吸し、自然に学ぶ



② 左「青磁香炉」2009年、右「灰陶甗」中国、西周時代

中国で生まれた青磁は、釉薬や土に含まれる微量の鉄分が還元焼成により青く発色したやきもので、非常に古い歴史を持ちます。最盛期の宋代の物など日本でも今日まで名品が伝えられ、現代では作家がそれぞれの表現を試みています。川瀬は青磁の中でも極めて希少で上質な北宋時代の汝窯青磁など、自身が憧憬する古い時代の優品から多くを学び栄養としてきました。それは形や技術を学ぶだけでなく、美を観る眼を養う行為でもあるといえるでしょう。展示では川瀬の自作と共にその師ともいえる古美術、自然の造形など、作品にインスピレーションを与えてきた物を合せてご紹介します。

みどころⅢ

未発表の習作から、最新作までを展示



③「焼締容器、盒子（翠瓷、赫瓷）」、「焼締盤」2018年

近年では青磁から展開させた翠瓷（すいじ）、藍瓷（らんじ）など、新たな色の作品を発表し、奈良薬師寺・東塔修復に際し提供された基壇土との出会いから焼締作品を試みるなど、川瀬の制作は豊かな広がりを見せています。

また川瀬はこれまで個展の度ごとテーマを設け作品を発表してきましたが、個展と個展の間には、長い時間をかけた試行錯誤や、完成に至るまでの様々な試みがありました。本展では、最初

期 1969 年頃の作から最新作まで、50 年を辿る作品を展示するほか、未公開の試作的な作品も展示します。川瀬は本展のために、薬師寺東塔基壇土や、作陶で使ってきた土を用いて焼締の「盤」を新たに制作しました。この盤の上に作品を組み合わせご覧ください。

■作品介绍



④



⑥



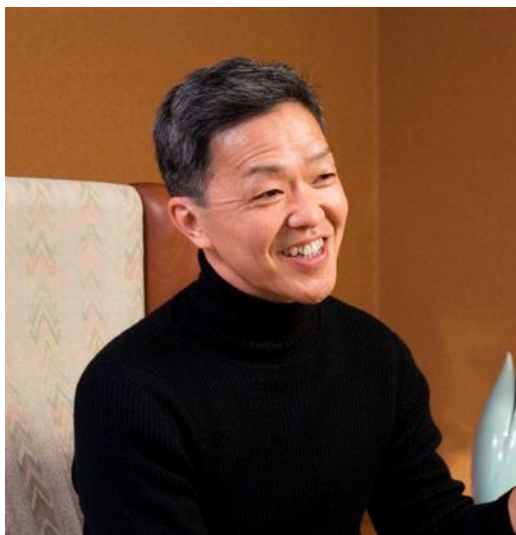
⑤



⑦

④左「焼締筒」2017年、右「青磁筒」2007年 ⑤「赫瓷盃、青磁盃台」2018年 ⑥「青磁茶碗」2006年 ⑦「藍瓷茶碗」2017年

■作家略歴



- 1950 年 二代竹春の長男として、神奈川大磯に生まれる
- 1968 年 祖父(初代竹春)、父のもとで作陶を始める
- 1976 年 現代陶芸「寛土里」第1回個展(東京赤坂)
- 1977 年 <川瀬竹春三代四人展>(大垣市文化会館)
「壺中居」第1回『竹春三代展』(東京日本橋)
- 1979 年 現代陶芸「寛土里」第2回個展
「壺中居」第2回『竹春三代展』
- 1981 年 「壺中居」第3回『竹春三代展』
- 1982 年 現代陶芸「寛土里」第3回個展
1981年度日本陶磁協会賞を受賞
- 1983 年 “JAPANESE CERAMICS TODAY”出品(スミソニアン
博物館、ワシントン/V&A 美術館、ロンドン)
現代陶芸「寛土里」第4回個展
- 1985 年 「壺中居」第1回個展(文房具)
- 1987 年 現代陶芸「寛土里」第5回個展
- 1988 年 現代陶芸「寛土里」第6回個展
(「きのう きょう あした」茶の器に託す造形)
- 1989 年 <二代川瀬竹春/忍/竹志 父子三人展>(大垣市郷土館)
「壺中居」第2回個展『玉意憧』
- 1990 年 現代陶芸「寛土里」第7回個展『香炉』
- 1991 年 「阿曾美術」(東京銀座)「オーロラの心象(イマージュ)」
と題した三人展と書籍を刊行
現代陶芸「寛土里」第8回個展『茶碗』
(「きのう きょう あした」茶の器に託す造形)
- 1992 年 現代陶芸「寛土里」第9回個展『鶴汀』
- 1994 年 現代陶芸「寛土里」第10回個展『風麗呼』
(「きのう きょう あした」茶の器に託す造形)
- 1995 年 <美の継承>(東京美術青年会創立60周年記念新作展)
出品
- 1996 年 “CONTEMPORARY JAPANESE CRAFTS”(国際交流基金、
巡回展)出品
現代陶芸「寛土里」第11回個展『人鳥(ペンギン)』
<現代の陶芸美一凛>出品(滋賀県立陶芸の森)
第2回<二代竹春/忍/竹志 父子三人展>(大垣市郷土館)
- 1997 年 現代陶芸「寛土里」第12回個展『白玉尖』
(「きょう あす あさって」茶の器に託す造形)
- 1998 年 「壺中居」第3回個展『鈞鎬』
- 1999 年 現代陶芸「寛土里」第13回個展『香氣』
- 2001 年 現代陶芸「寛土里」<三人展>『とら・TORA・虎』
- 2002 年 「壺中居」第4回個展『捫扣有清聲』
- 2003 年 <白磁・青磁の世界>出品(茨城県陶芸美術館)
現代陶芸「寛土里」第14回個展『耳珠』
- 2004 年 「壺中居」第5回個展『捫扣有清聲-II』
- 2005 年 “International Asian Art Fair”(N.Y. Joan.B.Mirviss
Ltd)にて個展『The Serene of Celadon / Seijaku no bi』
- 2006 年 現代陶芸「寛土里」第15回個展
<第1回智美術館大賞 現代の茶陶>展出品
(菊池寛実記念 智美術館)
- 2007 年 「壺中居」第6回個展『理非曲直』
- 2008 年 現代陶芸「寛土里」第16回個展『妖青の祈り』
- 2009 年 N.Y.、Joan.B.Mirviss Ltd、第2回個展
『Flowering Waves of Celadon / 華青波』
「銀座・黒田陶苑」個展『川瀬忍 酒器展—吟上のうつわ—』
「壺中居」第7回個展『外焰』
- 2010 年 <第3回智美術館大賞展 現代の茶>展出品(智美術館)
<茶事をめぐって 現代工芸への視点>展出品(東京国立
近代美術館工芸館)
現代陶芸「寛土里」第17回個展『滄浪』
- 2011 年 「川瀬忍の青磁 天青から 静かなる青へ」展(智美術館)
- 2012 年 「壺中居」第8回個展『絞胎』
- 2013 年 現代陶芸「寛土里」第18回『深淵』
- 2014 年 Joan.B.Mirviss Ltd(N.Y.)第3回個展
2013年度日本陶磁協会賞金賞受賞
- 2016 年 現代陶芸「寛土里」第19回個展『深紅妖婉』
- 2017 年 「壺中居」第10回個展『机辺掌中』
現代陶芸「寛土里」第20回個展『菓壺』

■ 関連行事

展覧会の会期中、以下の関連行事を開催いたします。ナイトミュージアム等、事前お申込み制の行事はお電話、FAXにて承ります。

□ 講演会

「川瀬忍さんと国宝東塔・基壇土の出会い 千三百年の命を未来へ」

2019年1月19日（土）15時 地下1階展示室前ホール

講師：奈良・薬師寺 加藤朝胤執事長（対談：川瀬忍）

聴講無料（聴講希望者には当日11時より入場一名につき一枚、座席整理券を配布。）

□ ナイトミュージアム

「日本文化の“間”を体験する」

①「落語の会」

2018年12月15日（土）18:30開演（18:20開場予定）、地下1階展示室

出演：柳家小満ん、（対談：川瀬忍）

②「地唄舞の会」

2019年2月9日（土）18:30開演（18:20開場予定）、地下1階展示室

出演：神崎えん（地唄舞神崎流四世家元）、（対談：川瀬忍）

・各回、定員50名（事前お申込み制。11/23受付開始）

・会費3,000円（観覧料含む。当日観覧券をお持ちの方2,000円）

□作家によるアーティスト・トーク 各土曜日 14:00

2019年1月12日、2月2日

□学芸員によるギャラリー・トーク 各土曜日 14:00

12月8日、22日／2019年1月26日／2月9日／3月9日

トークはいずれも予約不要、聴講無料（要当日観覧券）

予約・お問い合わせ 智美術館 ☎ 03（5733）5131

詳細は智美術館HPにも順次公開予定 <http://www.musee-tomo.or.jp>

■本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、本リリースに紹介されている作品画像をデータでお貸し出しいたします。申込書のご希望の図版に☑を記し、用紙を返信のうえ、お問い合わせください。ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。お貸出しする画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。作品の画像を 1 点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展ご招待券を読者プレゼント用に提供いたします。申込書、所定の欄に招待券希望の旨を明記してください。

掲載に関するお問い合わせ先 TEL.03(5733)5131 菊池寛実記念 智美術館(担当:高田、島崎)

掲載・画像貸出申込書

返信先 FAX : 03-5733-5132

●貴社基本情報

会社名:	
担当部署:	担当者名:
住所:	
電話	ファックス:
E-MAIL:	

●媒体情報

新聞 雑誌	媒体名:	
	発行日:	発売日:
TV ラジオ	媒体名:	
	放送日:	放送時間:
ネット	URL:	

●画像貸出リスト ※キャプションには作者・作品名・制作年、撮影者を必ず入れてください。(撮影:尾見重治、大塚敏幸)

希望作品に☑	作品キャプション
☐	図1) 川瀬忍 上「天目(烟瓷／青磁)」2016 年、下「焼締盤」2018 年
☐	図2) 川瀬忍 左「青磁香炉」2009 年、右「灰陶鬲」中国、西周時代
☐	図3) 川瀬忍 「焼締容器、盒子(翠瓷、赫瓷)」、「焼締盤」2018 年
☐	図4) 川瀬忍 左「焼締筒」2017 年、右「青磁筒」2007 年
☐	図5) 川瀬忍 「赫瓷盃、青磁盃台」2018 年
☐	図6) 川瀬忍 「青磁茶碗」2006 年
☐	図7) 川瀬忍 「藍瓷茶碗」2017 年

●読者プレゼント用チケット希望: ☐5 組 10 名様 ☐10 組 20 名様

プレスレビューのご案内

展覧会の趣旨、作品解説など、内覧会に先立ちましてプレスの皆様にご説明申し上げます。
ご多用のなか恐縮に存じますが、どうぞご出席くださいますようお願い申し上げます。

菊池寛実記念 智美術館

プレスレビュー 2018 年 11 月 22 日(木) 14:00 ～

14:00 ～14:45 展示室にて、展覧会のご説明、作品解説などを行います。
展覧会の会場内をご撮影いただけます。

14:45 ～15:00 皆様からのご質問にお答えいたします。
※レビューには展示作家、川瀬忍氏もご参加いただく予定です。

会場：菊池寛実記念 智美術館 〒105-0001 港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1

- ・日比谷線・神谷町駅出口 4b より徒歩 6 分
- ・南北線・六本木一丁目駅改札口より徒歩 8 分
- ・南北線／銀座線・溜池山王駅出口 13 より徒歩 8 分
- ・銀座線・虎ノ門駅：出口 3 より徒歩 10 分

◆
ご出席いただける場合は、下記フォームにご記入の上、FAX にて

ご返信下さい。**返信先 FAX 03-5733-5132**

会社名：	
担当部署、氏名	
住所：	
電話：	FAX：
Email	